

文部科学省は学習指導要領の改定内容を審議する中央教育審議会の専門部会に、中学校の主要5教科(国語、社会、数学、理科、外国語)と保健体育の授業時間数を現行よりも約1割増となる年間計約200時間程度増加させる方針を提示した。また、総合的な学習の時間は週1時間(年35時間)を削減。選択教科も削減し、各学年の年間総授業時間は週1時間(年35時間)程度増加することになる。

1年生は数学、2年生は数学と理科、3年生は国語と社会と理科を中心に充実させ、外国語と保健体育も3年間を通して充実させる。小学校は主要4教科(国語、社会、算数、理科)と体育の授業時間を約1割増やす方針で、既に中教審の専門部会で大筋了承された。また、伊吹文明文部科学相は31日の閣議後会見で、次期学習指導要領について09年度から一部実施し、小学校は11年度から完全実施する方針を示した。